



VIEW next 編集部に異動して、早2か月が経ちました。いまだコロナ禍が続いていますが、今号の製作においても、万全の感染対策を講じた上で、何校かの学校を取材で訪れました。そのうちの1校で、特集の実践事例でご紹介した香川県立高松北中学校・高校を訪れた際、校内に生徒たちが製作したスロープがあると伺い、案内いただきました。何とこのスロープは、バリアフリーについて学んだ生徒たちが、自分たちで企画・設計し、材料を調達して製作したそうです。生徒たちの主体性に、ただただ驚かされました。新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指し、学校教育は大きく変わってきていますが、生徒たちはその環境で学び、育っているのだと実感しました。(山本)



VIEWnext  
高校版は

電子ブックで閲覧可能です

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版  
2020年4月号以降は、電子ブックでご覧  
いただけます。ベネッセ教育総合研究所  
のウェブサイトでご確認ください。

HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

<https://berd.benesse.jp>

VIEWnext

高校版 2021年8月号

8月20日発刊  
(予定)

『VIEW next』高校版は  
年6回の発刊です

## Reader's VIEW

2021年4月号へのご意見

### 『VIEW next』に期待

『VIEW next』の創刊、おめでとうございます。新しいコーナー構成により、読者個々の属性に合わせて関心ある事項や事例を読むことができそうだ。色の使い方も今風で見やすい。これからの号にも期待している。

静岡県 匿名希望

### 新学習指導要領の要点を改めて把握

4月号の特集「新教育課程編成」では、最初に「課題整理」があり、2校の事例を読む前に新学習指導要領の要点を改めて押さえられたのはよかった。両校とも、学校のランドデザインを軸にして新教育課程を検討しており、やはりそれが基本的な進め方なのだと再認識できた。

龍谷大学高大連携推進室 堀 浩司

### これからも教育課程の不断の見直しを

本校は既に新教育課程を完成させたが、4月号の特集で紹介された「履修科目・年次検討時の3つの視点」を興味深く読んだ。完成させたら終わりではなく、記事にあった3つの視点を大切にしながら、どのような学校を目指すのか、どういった生徒を育てたいのかを踏まえて、運用後も教育課程を見直していこうと改めて思った。静岡県立御殿場高校 松山 陸

### 学年団での意思疎通が大切

学年団にチームづくりを聞く「輝く学年団を訪ねて」は、新しい視点の記事であり、感動した。学年団で意思疎通を図り、教師間でぶれずに指導することは非常に重要であり、生徒・保護者からの信頼を得るために必要不可欠だ。そんな教師集団による3年間の指導を通じて、生徒は成長し、教師も力を伸ばしていく、そんなことを確信した。

兵庫県 匿名希望

### 記事を読んで授業を間近で見ることができた

4月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された北海道・市立札幌平岸高校の對馬光輝先生の授業は、現代文の定番教材『こころ』に探究的にアプローチするものだった。「問いを立てる」ための指導の工夫、キーの発問を深く考えさせるための展開など、授業が具体的かつ詳細に記されており、間近で見ているようだった。東京都立北園高校 鈴木公美

### 高校でも「日本語の4技能」の指導を

4技能と言えば「英語」のイメージがあるが、4月号の「誌上で見学学びのnext」で「日本語の4技能」という文字を見た瞬間、はっとさせられた。最近、3年生に面接指導をしていると、口頭での表現力が以前と比べて低くなっていると感じていた。日本語を「話す・聞く・書く・読む」といった技能は、初等教育での指導だけでなく、中等教育でも、各教科・科目の中で意識して育成すべきだと改めて思った。「日本語の4技能」という言葉は新鮮であり、頻繁に使うことで、教師の意識が変わっていくかもしれない。

福岡県・私立大牟田高校 荒木信一